

↓カードにスタンプを押すと、シールがもらえるという楽しみもあります



↑子どもたちが大好きな絵本は、毎回オリーブの皆さんが選書しています



↑昨年11月、群馬県教育委員会から「顕彰状」がオリーブに贈られました。地域の子どもたちに対する読書活動への貢献が認められました

読み聞かせの後、参加した子どもたちにはカードにスタンプを押して、シールをもらうという楽しみも用意されています。また、7月には七夕飾り、12月にはクリスマス会も開催され、子どもたちに喜ばれています。自作のパネルシアターや、劇なども行っているそうです。

毎回終了後には、活動の反省会や次回の活動に向けて絵本の選書や読み聞かせの練習なども行っているといわれています。「読み聞かせを通して、子どもたちの成長を見ることが、何よりのやりがいに通じている」とメンバーの皆さんは、口をそろえて話します。



クリスマス会では、子どもたちにプレゼントも用意され、楽しいひと時の「おはなしのへや」になっています



久保田佳那さん
(坪谷)

私は読み聞かせをするとき、雰囲気大切にしています。始める前に必ず手遊びをして子どもたちの心をつかんだ後、読み聞かせをしています。子どもが大好きなので、これからも「おはなしのへや」での時間を大切にしていきたいです。



日比野恵子さん
(水立大黒)

幼稚園に勤めていたこともあって、子どもとふれあえるボランティアがしたいと思い参加しました。子どもたち一人ひとりが目を輝かせて絵本を見ている姿は何よりの喜びです。今後は、お母さんたちに子育てのアドバイスなどもしていきたいです。

語りかける愛情で 子どもの幸せ広げたい

Closeup I 読み聞かせボランティア

オリーブの「おはなしのへや」



読み聞かせグループ「オリーブ」は、親子（幼児2〜3歳児）で絵本を楽しむ機会を支援するボランティアグループです。町立図書館が開館した平成7年1月以来、19年もの間、活動を続けてきました。グループ名は、図書館の英語読み「おうらライブラリー」をもじって名付けたそうです。

会の代表を務める横塚登代子さんは「オリーブは開館間もない図書館の『読み聞かせ講座』の参加者を中心に結成されました。その後図書館で活動が行われるようになり、メンバーの募集も行われました。当時私は小学生へ読み聞かせのボランティアをしていたこともあり、今度は親子向けの読み聞かせをしてみたいと思い活動に参加したんです」と当時を振り返ります。

メンバーの入れ替わりもありましたが、オリーブの皆さんは読み聞かせボランティアの募集を見て、自主的に参加した人ばかり。そうした人たちの紡ぎだす「おはなしのへや」は、絵本の読み聞かせに始まり紙芝居手遊び、季節の折り紙など親子で「楽しいひととき」を過ごせるようになっていきます。



オリーブの「おはなしのへや」は、毎週木曜日の午前11時から町立図書館で行われています。対象は、幼児（2〜3歳児）です。



柿沼育子さん
(明和町)

週一回のボランティアですが、子どもたちが読み聞かせを通して、心豊かに成長していく手助けができればいいと思っています。今参加してくれているお母さんたちが、今度は読み聞かせボランティアとしてオリーブに加わってくれたらうれしいですね。



横塚登代子さん
(足利市)

読み聞かせのときは子どもと一緒に楽しく読むことを心掛けています。「おはなしのへや」は絵本を通して、読み手と親子が「楽しさ」を共有できる空間です。いつも来てくれるお母さんと子どもたちの笑顔が会を継続していく力にもなっていますね。